

2023年度 第4回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

1 承認日

2023年7月3日(月)

2 開催方法

WEB 会議

3 参加者

星議長、磯田委員、伊藤委員、林委員、金村委員、常盤委員、東委員、濱口委員、田中委員、國澤委員、山崎委員、久保田委員、河村委員、廣渡委員、柳澤委員
オブザーバー参加:延原情報センター所長

4 事務局

福田副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長、山口企画・情報担当部長

5 議事概要

【議事録確認】

議長から前回の議事録が提示され、内容について確認された。

【報告事項】

(1)2022年度累積GPAの結果報告について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から報告された。

- 分析の方法として、例えばコロナ禍前の3年間とコロナ禍の3年間の変動幅に着目し、有意差があるかどうかを調べてみるのはどうか。また、GPA と国試の合格や留年、実習の成績等の相関や因果関係を調べ、個々の学生への指導に役立てることをご検討いただきたい。
- 「コロナ禍ではGPAが上がり、学修成果が向上した」という主旨の記載があるが、そう言ってしまうと良いのか。それであれば、遠隔授業中心のほうが良いと言ってしまうのではないかと。
⇒ 学修成果が向上したとは言い切れず「可能性がある」としている。
- 成績を付けるにあたって、例えばS評価やD評価(不可)は全体の何割以下に抑える等の標準的な成績分布を設けているか。
⇒ 議論はあったが、設けていない。到達度評価で成績を付けているので、S評価が相当数

いる可能性もある。今後、検討が必要だと考えている。

(2)2022年度授業評価・学修成果アンケートの結果について
資料に基づき、東高等教育開発センター長から報告された。

- 回答数が少ないことについて、全科目において教員が学生にアンケートの回答をするように案内をしたのか、それとも全く案内をしない教員もいたのか、どちらか。
⇒ 高等教育開発センター長から案内するように教員に周知はしたが、実際に案内したかどうかはわからない。
- 高等教育開発センター長は各教員に対して指示する権限があると思うので、しっかり学生に案内するようもう少し強く指示しても良いのではないか。
⇒ 授業評価・学修成果アンケートを当初検討した際に、授業時間中に実施して良いのか、入念に議論したことがある。例えば期末試験は授業時間に算入してはいけないと文科省から指導があったことがあり、アンケートも同様のようである。どこまでできるか検討する。
- DP2「客観的・批判的思考」、DP4「連携・統合」の結果が低いのは可視化しづらいから、という説明があったが、逆にDP1「対象者の理解・倫理観」とDP3「多面的・専門的」が高いのも可視化しづらいから自分を高く評価しているだけ、という考え方もあると思うがどうか。
⇒ ご指摘のとおりでそれも考えられる。正直なところどれも可視化しづらく、学生は判断に迷っているのではないか。
- 測定できない内容はDPに掲げてはいけないのか、という本質的な問題が絡むため、DPをどう設定するかは難しい問題であると再認識した。

(3)2021-2022年度「教育・研究・地域連携の一体的推進事業」助成制度の実績報告について
資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告された。

(4)2022年度埼玉県立大学学生調査(卒業・修了時)の結果について
資料に基づき、山口企画・情報担当部長から報告された。